

神田外語大学紀要第 29 号  
抜刷 2017 年

The Journal of Kanda University of International Studies Vol. 29 (2017)

地名をめぐる産業活動者の適用と範囲認識の相互作用  
— 「幕張」の自然地理的および人文地理的変容 —

Interaction among Industrial Actors on Application and Range  
Perception over Geographical Name: Physical and Human  
Geographic Transition of MAKUHARI, Chiba

豊 田 聡

# 地名をめぐる産業活動者の適用と範囲認識の相互作用

## —「幕張」の自然地理的および人文地理的変容—

### Interaction among Industrial Actors on Application and Range

### Perception over Geographical Name: Physical and Human

### Geographic Transition of MAKUHARI, Chiba

豊田 聡

#### 要 約

本論の目的は、ひとつの地名に対して人々が持つ地点や範囲の認識にはちらばりが存在することを示し、その要因をおもに産業活動の視座から論じることにある。

方法としてK.リンチを嚆矢とする認知地図の概念に基づき改変を加えた質問票を構成した。設問対象として、現代にはいり自然地理上および人文地理上のいずれにおいても劇的な変化に直面してきた地名である、千葉県の「幕張（まくはり）」を採用した。調査地は、過去あるいは現在に行政が幕張と称した地区とその隣接地とし、その区域の利用者へ対面聞き取り調査を実施した。

調査結果として地名・幕張に対する都市構成エレメント（要素）認識の集中傾向と多様性を確認し、とりわけ範囲の認識については多様性にとどまらない座標分離の現象を発見した。現存しない「記憶のエレメント」を優先して語る回答例も看過できない。これらの要因推察として、高度経済成長下、異質な産業活動者が区域を棲み分けたままひとつの地名を複層的に利用し続けた結果であること、また地名の境界認識については、リンチの唱えたエレメントがしばしば行政上の呼称や住居表示以上に作用することを述べる。

キーワード：産業活動者 コミュニケーション 地名 地理 座標 都市エレメント  
埋立 コンベンション 商業 メンタルマップ 認識地図 記憶

## 1. 問題意識

本論では、産業活動コミュニケーション上の鍵概念のひとつである地名の特質について、主に産業利用者の範囲認識から再考する。

地名は地点や区域といった静的な位置すなわち座標の決定を端的に示す表象である。なぜ地名に文字や音声が使用されるのであろうか。それは文字や音声が、社会生活者が端的に理解できる意味および印象を持ちうるからであり、人々は地点や区域に対して命名あるいは呼称するにあたり、座標情報にあわせて意味および印象を授受することができる。産業の世界に注目すれば、地名はしばしば、事業者名や事業所名、あるいは提供財の名称として展開利用がみられ、活動主体の呼称へと取り込まれていく。現代社会の産業ともなれば事業者や財は地名を称したまま距離を厭わず活動し、あるいは露出するのであるから、地名は一転して動的な性格を帯びる。これにより、地名が示す座標へ未訪問の人々に対してでさえ、その座標が有するとされる意味や印象、ひいては通商価値を遠隔のまま疎通させることが可能である。

柳田國男は地名の性質を「いかに微小なものでも一つ一つ、人間の意思に成らぬものはない」ものとし、「いわゆる人と天然との交渉をこれ以上綿密に、記録しているものは他にはない」と評価する（1936『地名の研究』）。このことは現代社会の都市でもあてはまるのだろうか。ここに、天然（自然）とは、座標が抱える個性としての与件であり、人間にとっては自らの力で動かしがたい恩恵と災いをもたらす畏敬の対象である。

しかし現代の経済社会は先端土木技術を伴い、人と自然の交渉そのものの力学を変えてきた。高度の公共事業により土地改良が繰り返され、河川と海の治水が促進され、都市では山頂よりもビル群が先に雲に届くようになった。山や丘が、

都市の材料となるために消え、地形も標高も人為の手に落ちている。気象変動においてもその一端を人為的要因とする幾多の研究がなされている。自然からの否定的影響を避けたい人々の願望と産業技術に支えられ、都市生活基盤は安全、安心、快適の度合いを高めているように見える。

このような基盤を前提とした現代産業社会においては、人と人の、そして人と自然の交渉が、活動舞台をあらわす地名とのあいだにどのような相互作用をもたらしているのであろうか。開墾であれ都市化であれ、人々は産業活動地のひろがり部分に対して地名を附してきた。その地名は大字小字あるいは市区制といった秩序と分けを伴うものから、口承によりあいまいさを残す通称までさまざまである。地のひろがりや名のひろがりやが並行してゆく過程に、我々は文化の一端を興味深く見出すことができる。

本論の事例として、千葉県に所在する幕張（まくはり）を取りあげる。1960年代からはじまった海岸地区埋め立てによる海岸線の2.6km沖合移動など地形そのものの自然地理的変容と、まつわる行政および産業アクターがどのように景観を変容させ、どのように地名をまとっていったかという人文地理的展開の関係推移を研究する。座標として、千葉市花見川区幕張町を起点とし、主に南の海岸公有水面埋立地区へ、さらに西接する習志野市へ展開する。方法として、当事者である産業利用者への聞き取り調査を幕張の地名にまつわる各地で行い、地名に対する反応としての認知地図を得る。あわせて、同地域の産業推移を示す公表資料ならびに地図を参照し分析する（聞き取り調査で得たコメントを本論で掲載する際は調査票整理番号〔m-数字〕で記す。）。

## 2. 幕張小史 自然地理と人文地理の相互作用

### 2. 1 戦前までの自然地理

およそ北緯 35 度 66 分、東経 140 度 05 分の位置に発見できる本論の対象地域は、本州島弧のほぼ中央にて、太平洋側に形成された房総半島北西部の一角を占

める区域をさす。三浦半島と囲む東京湾へ北東奥で面し、関東平野の一端を形成する低地である。

東京湾が現在の形状に近づいたのは海進と海退の結果であるとされる<sup>1</sup>。関東平野は盆地状の海底に、周囲の山地や丘陵から河川を通して碎屑物が流れ込み、10万年ばかり以前より歳月をかけて厚く堆積し地層を形成した地である。2万年前には寒冷化により海面が100cm以上低下すなわち海退したため海底の平地が陸化し、更に流れ込み続ける河川によってV字谷を形成した。この時期は偏西風により富士山など活火山からの灰が堆積した。この地が縄文時代を迎えて以降、約6000年前には温暖化により海面が上昇すなわち海進し、V字谷には海水が浸入して平野に入江を形成した。当時の年平均気温は現在より1~2度高かったため海面も高く、東京湾奥の原型は現在の栃木県藤岡、埼玉県蓮田や川越まで達しており、海産貝類の貝塚が発見されている（奥東京湾、古入間湾）。比較的海流の弱い内湾には泥が堆積したため、湿地帯や干潟を形成した。更に気候変動で海面が下がると奥東京湾の南北全長で示すおよそ北半分が陸地化して現在の千葉・東京・神奈川を海岸線とする東京湾へと至った。総じてなだらかな沖積平野の河口として、東京湾内湾一帯は、海流の速い一部海域を除いては、陸地と連続した遠浅が形成された。

このような自然地理をもつ東京湾へ大きな変化をもたらした最初の土木は、江戸期における利根川の瀬替工事である。幕府は関東郡代の伊奈家に1621年から1654年までの期間にわたり葛飾平野を流域とする荒川・利根川・渡良瀬川を瀬替、即ち河道改修させた。目的は、江戸市街の洪水予防、流域の整理による水田の開墾そして、架橋の意図的制限による東北の外様大名に対する首府江戸の防御策と複合的である（菊地 1982）。利根川への流量誘導により東京湾への淡水および土砂の流入量は影響を受けた。

---

<sup>1</sup> 「東京湾水環境再生計画」国土交通省関東地方整備局

並行して東京湾では  
首府江戸構築の一環と  
して埋立の歴史が始ま  
る。1600 年代（江戸時  
代）から日比谷入江の  
埋立、浜御殿（現在の  
浜離宮恩賜公園）の干  
拓造成等に遡る。1800  
年代には台場の築造、  
1900 年代には佃島の  
延伸等が行われていた。  
明治以降の埋立につい  
てみると、明治・大正  
期に東京・神奈川県側  
湾岸で約 1900ha の埋  
立が行われた。本論で  
扱う千葉県側での埋立  
が事業として本格化す  
るのは戦後期以降であ

図1 東京湾 昭和30年代（前半）と現在の自然海岸線  
（国土交通省関東地方整備局）



る（『東京湾水環境再生計画』国土交通省関東地方整備局）（図1）。

## 2. 2 地名に注目した幕張小史

地名幕張は往古の史料や伝承に確認することができる<sup>2</sup>が、わが国近代史以降、

<sup>2</sup> 1294（永仁2）年には大須賀荘幕張本郷と称していた。1445年には馬加康胤の時に馬加郷とあらためられ、1508（永正5）の文書で千葉群中須賀庄本郷馬加新聞宿とある。頼朝通過の時に馬が不足したので馬を助合したとの伝承や説がある。『千葉大百科事典』（千葉日報社）

地名適用の拡張に影響を与えた行政上あるいは産業上の時代区分として（１）幕張町制施行期（２）千葉市および習志野市への併合（３）第１次埋立 および（４）幕張新都心構想をとりあげ、地名と都市景観の変遷、および産業活動者の地名活用を以下の通り概観する。

#### （１）幕張町制施行期

近代的地方自治制度である市制町村制の施行にともない、1889（明治 22）年、下総国千葉郡にあって浜田川沿いに存在する馬加（まくわり、口語で“まかーり”、“まか”とも）、武石、長作、天戸および実籾の 5 村が合併して基礎自治体を組成し、幕張村と称した。役場を大村である馬加区内に設置し、教育や戸籍事務などを担った。人口増加により 1896（明治 29）年には千葉郡幕張町に昇格した。さて、昭和 4 年に松井天山により記された町案内「千葉県幕張町鳥瞰図」<sup>3</sup>によると、基本的町勢、景観、産業について「面積千二百町歩（約 1,200ha）戸数千百五十二（1,152 世帯） 人口六千八百五十三（6,853 人）。町民一般に農業に従事し漁業もまた大いに有望なり 戸数増加は近年ことに著しく・・商業また漸く盛んならんとす。海岸は眺望絶佳海面遠浅にして潮干狩および海水浴に好適なり」と簡潔かつ明瞭に記している。交通については、「鉄道および電車軌道並行に町の南部を貫通し、北部には電車軌道および軍用鉄道あり」「また駅及停留所よりは千葉船橋間の乗合自動車ありて交通完備す」と紹介されている。主なみどころとして紹介されているのは子守神社、昆陽神社を筆頭に、寺社中心に計 10 地点が紹介されており、浜田川河口沿いの両神社が町のランドマークであり人々が集う地点であったことが読み取れる。ちなみに当時の馬加区の標高上の頂点は浜田川河口左岸にある海拔 15m の大須賀山（堂の山）である。同図裏面の多くを割いた町内事業者紹介一覧は、各掲載面積も異なり、宣伝広告とみられる。馬加第 1 区から第 5 区まで合計 88 軒、武石区から 5 軒の法人・個人事業者の掲載があり、一部イラストや屋号と

<sup>3</sup> 表面に南側東京湾上からの鳥瞰図、裏面に町勢を記載した両面印刷であり、当時のタウンマップとして 1 枚 15 銭で頒布されていた模様である。

ともに和洋菓子店、医院、割烹・旅館、呉服店、酒店、運送店など多様な産業が集積する、宿駅らしいにぎわいを示している。馬加の海岸で特徴的な産業である澱粉精麦業者（名産の甘藷原料）、貝灰製造業者（建材）も、鮮魚店とともにそれぞれ数軒掲載されている。事業者の名称として屋号と個人名が併載されているなか、「幕張」の文字を冠した事業者を、漁業組合のほかに、運送会社 3 社を含む 4 社確認できる（表 1）。地図上で事業者が集中しているのは、江戸期とかわらず海辺に沿う継場の道沿いである。房総往還、上総道あるいは千葉街道などと時代と人により様々な呼称が与えられてきた。この一本道は江戸と上総、安房を結ぶ陸路としては江戸期から終戦まで変わらず一本きりで迂回路のないものであり、戦後は交通量増加に伴い激しく対応を迫られることとなる。この通りは、他の多くの宿駅にみられるのと同様にクランクが特徴（現存）であり、子守神社前の横宿から東へ仲宿、下宿と称された〔m-002〕。

表 1 幕張の名を冠した産業活動者および公共施設

（1929（昭和 4）、「千葉県幕張町鳥瞰図」より豊田）

|  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕張駅（総武鉄道、現 JR 総武線 1895（明治 27））</li> <li>・幕張尋常高等小学校 1897（明治 29）<br/>（浜田小学校より改称）</li> <li>・幕張駅（京成電鉄、1921（大正 10））</li> <li>・幕張町漁業協同組合 1929（昭和 4）<br/>（馬加浦漁業組合より名称変更）</li> <li>・幕張町役場</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕張合同運送会社</li> <li>・幕張合名自動車運輸</li> <li>・幕張自動車運輸部</li> <li>・幕張養鶏園</li> </ul> |
|--|--|

町境については、東は花見川をはさんで検見川町、南は海岸、西は新田の先の畑地において鷺沼村、北は陸軍練兵場をかかえる軍郷大久保と接していた。幕張町域北部の交通に関しては、実叻および大久保に京成電鉄本線の駅が設置され（1926（大正 15）年実叻駅開業）、谷津・久々田・鷺沼の 3 村が合併し設立した



津田沼町への直通化が実現し、総武線、京成千葉線が横断する幕張海岸区域とはことなる人の流れを形成した。

## (2) 千葉市および習志野市への併合 1954 (昭和 29) 年

千葉郡幕張町域は、戦時中に壊滅的空爆を被った東京都心と千葉中心街の中間地点にありながらも、からくも大きな戦災から免れ〔m216〕、戦後経済復興の途に就いた。昭和 20 年から 21 年にかけて千葉街道の子守神社前クランク部分にこの区域ではじめてのバイパスが敷設され<sup>4</sup>、往来は直線化した。また、1947 (昭和 22) 年には実効に幕張町立幕張中学校を開校し、5 年後には生徒数 772 人をかぞえた (「あゆみ」幕張中学校創立五十周年記念誌 (1997))。

1953 (昭和 28) 年、政府は新制中学校および各種福利厚生行政の管理執行力を基礎自治体に求める町村合併推進法を施行した。千葉郡の町村がそれぞれ合併を実現していくなか、当時 1 万 4 千人余りを擁した千葉郡幕張町は、東接する県都千葉市、および西接し習志野市構想を掲げる津田沼町の双方から編入を期待された。翌 1954 (昭和 29) 年、幕張町議会は 1 票差で千葉市編入を議決したが民意の收拾に苦慮し、千葉県議などの調停もうけて町域の一部が津田沼町と合併し習志野市に昇格する決着をみた。

これにて幕張の名は基礎自治体の単位として姿を消し、千葉郡幕張町を形成した旧 5 村について、旧馬加村域の大部分は千葉市幕張町 1 丁目から 6 丁目へ、武石・長作・天戸は千葉市武石町、長作町、天戸町とそれぞれ住居表示変更された。これら 4 区域の住民はひきつづき最寄駅である幕張駅 (国鉄総武線および京成千葉線) および学区を生活圏として共有することとなる。町制の北部を担ってきた

---

<sup>4</sup> 日本初の科学的実測地図である伊能図では上総と江戸を結ぶ一本の道 (房総往還) 上に馬加宿を記している。同地に律令制下の古東海道が設置されて以来千年余り、房総半島側の東京湾岸陸路を“これ一本”で賄ってきたこの宿駅は、1945 (昭和 20) 年から 1982 (昭和 57) 年の 40 年弱の期間の往来増加と開発ラッシュにより京葉道路、国道 357 号線など四重の高規格バイパスで南北を囲まれることになった。最初のバイパスの完成時期は航空写真 (1946 年 2 月 13 日米軍撮影) および歴代地形図より推察。

実籾町の大半が習志野市実籾町として編入された<sup>5</sup>。習志野市に編入された実籾町と屋敷は、京成本線を背骨とした新市制の一翼を担い始めることとなる。本論では幕張村成立以来 65 年間にわたり幕張町制下にあった武石・長作・天戸・屋敷および花咲を旧千葉郡幕張町制域と称する。

(3) 幕張海岸第 1 次埋立 ～幕張町漁業・遊覧事業の発展、終焉と幕張本郷・幕張西の誕生～ (1964 (埋立完了) ～1985 (幕張本郷の住居表示完了))

千葉市編入後の幕張町は、埋立計画の進展により、海浜遊覧事業の最盛期と漁業の終焉へと同時に向かっていった。幕張町漁業組合が 1951 (昭和 26) 年からアサリ養殖とハマグリを増殖に注力したものがやがて結実し、遊覧事業すなわち潮干狩りと海水浴の盛業を導いた<sup>6</sup>。

1964 (昭和 39) 年、幕張町海岸部の第 1 次埋立工事が、7 年の工期をかけ完了した<sup>7</sup>。幕張町 1 丁目から 5 丁目に編入されたこの全長 2km ほど、沖へ向かい 500m ほどの埋立地は護岸の更に沖合に 1km あまりの遠浅を残す規模のものであった。そのため二枚貝と海苔 (のり) 養殖に代表される漁業はかえって盛んとなった。漁業組合は従来の貝のむき身の出荷に加え遊覧事業に力をいれる。埋立地は宿場道の渋滞を解消するための国道 14 号線用地となったほか、この地の遊覧事業である潮干狩りおよび海水浴場のための駐車場や屋台出店スペースとして、「幕張町の臨海デッキ」の如き格好の役割を果たした。沖合の再埋立が間近になった 1972 (昭和 47) 年には貝取券の取扱所も 7 か所にふやし、潮干狩り、海水浴客を

<sup>5</sup> 本文記述はおおまかなものであり、馬加区の一部であった屋敷は習志野市に編入、また馬加区の一部住宅地が習志野市花咲となるなど再編の余波が生じた。また地域社会単位の象徴のひとつである幕張中学校区が二分されることとなった。

<sup>6</sup> 『メッセの町は海だった』 写真集／幕張の 60 年 安藤操編 1989

<sup>7</sup> この埋立は開始の経緯が異なっている。江戸期から再開した、利根川の治水のために印旛沼から花見川に通じる放水路の掘削で土砂が発生。1939 (昭和 14 年)、農林省は、これを用い、花見川河口に西接する幕張町地先の波打ち際で農地造成を試みた。食糧増産を急ぐ国営事業として 1949 (昭和 24) 年より開始されたものの環境技術的理由で一時的に中断する。のち 1960 (昭和 35) 年より県が事業を引き継ぎ工事再開、68ha の埋立を終了したものである。『千葉県の自然史』 本編 8 変わりゆく千葉県の自然 (平成 16) による。財団法人千葉県史料研究財団編)

収容する納涼台も 11 件となり」「潮干狩り、海水浴用品を販売する露店も数十軒に及んだ。扱いの多い日は最高 4 万人から 5 万人に達したと記録される<sup>8</sup>。幕張の地が海苔の養殖に参入したのは 1939 (昭和 14) 年と千葉県内で最後発であったものの、その後発展し、五指にはいるまでになった。幕張町漁業協同組合が漁業権を全面放棄する年にあたる 1972 (昭和 47) 年には海苔の年間生産量は 4369 万枚に達した<sup>9</sup>、冬の幕張海岸は海苔干場として夏とは異なる景観を放っていたのである。エアコンやプールが希少な時代の代表的な納涼遊覧事業は海苔養殖とともにこの年に終わりを迎え、幕張町を支えてきた一大産業である漁業が、千葉市域の最後の漁業権として消滅した。漁業従業者および海浜関連事業者は補償を受けとり、あたらしい道を模索した。

幕張町の陸側西部でも土地利用に根本的な変化があった。町の主産業である農業を担ってきた、幕張町 1 丁目および 2 丁目の市街地北部に後背する畑地の全域が、1982 年および 85 年に相次いで幕張本郷として分離された。往古の伝承にちなんだ名称を得たこの幕張本郷は、土地利用を一新することで、東京近郊として 2 つの大きな機能を、従来の「東京の食糧供給地」に代えてあらたに担った。ひとつは JR 車両基地用土地の提供であり、もうひとつは宅地供給である。いずれも東京通勤圏としての需要に応えるもので 1981 (昭和 56) 年には幕張本郷を帯状に横断する車両基地に隣接して JR 幕張本郷駅が開業し「文化住宅地としての理想郷」を具現化する場となった<sup>10</sup>。既に駅前に従来の土地建物が密集した幕張駅を代行するように 2km 西に新駅である幕張本郷駅が本格的なロータリーを備え、埋立地方面への縦貫交通のゲートウェイを担うこととなった。幹線道路が整備され、高頻度のバス輸送を実現させたのち新交通システムの検討がなされるに

<sup>8</sup> 6) に同じ。

<sup>9</sup> 『東京湾沿岸 海苔漁業三百年の顛末』渡辺 亀代二 2000 年 5 月。

<sup>10</sup> 千葉郡幕張町の過半が千葉市に統合されるに際し、千葉市議会合併調査委員会から「幕張町合併の構想」書面が幕張町に提出された。そこには「将来文化住宅地としての理想郷」とする、駅を新設する、埋立地には海岸公園を作りまた海水浴地帯とする、各種公共施設を整備する、などの施策がもりこまれた。『幕張郷土史 1983 (昭和 58) 年』

たった。

京葉道路幕張インターチェンジのふもとで習志野市境にある幕張 1、2 丁目埋立地域は旧漁業関係者に分譲されるなど宅地化がなされ、1979 年に幕張西 1～4 丁目へと住居表示変更がされた。連続して翌 80 年には南接する埋立地が幕張西 5～6 丁目に設定された。この幕張西は住民投票による希望を容れた名称だが、その後 1992（平成 4）年千葉市の政令市移行に伴い、幕張海岸から唯一美浜区に組み込まれる住宅地となった。

#### （4）幕張新都心構想

幕張地先は、当初海浜ニュータウンとして、住宅の充実を主眼に、この地区にとっての第 2 次埋立計画がなされたが、経済構造変容を見通して千葉県からビジョンの変更がなされた。千葉県のマスタープランについては、中村俊彦千葉県企画部次長が『コンクリート工学』に寄稿した「幕張メッセ」（1987）で要旨を紹介している。関係箇所を長く丁寧に引用する。「本県は首都圏にあって、51 万 ha という広大な県土を有し、昭和 58 年には、全国で 8 番目に 500 万人を超える県となった。昭和 30 年代から臨海部の埋立て地に大規模な工業集積を進め、現在では全国でも有数の工業県となっている。」農業、酪農、水産業の生産においても全国有数である一方、人口と経済の県西集中、そして重化学工業の出荷比率が 6 割に達していることなどから、ひずみを是正した地域振興を指向した「千葉県新産業三角構想」を提示した。「学術・教育」、「研究開発」、「国際的物流」等の諸機能を備え、新しい道路体系によって三角形に結ばれることとなる千葉（幕張）、木更津・君津、成田の 3 つの核都市を中心に展開される「幕張新都心構想」、「上総新研究開発都市構想」、「成田国際空港都市構想」を基幹プロジェクトとして位置づけ」た。「千葉新産業三角構想の中で、「幕張新都心」は、先端技術に対応する高度な人材を育成する学術・教育機能を担うプロジェクトとして、また同時に、この地区内に構想している「幕張メッセ」を先端技術産業の展示の場と技術と文化

の国際交流の場の形成を目指すものと位置づけた」とし、「東京都心と国際空港成田の中間に位置し、東関東自動車道および京葉線（現 JR）等によりそれぞれへ約 30 分で直結されるという優れた立地条件を生かし」首都圏の業務核都市を目指す千葉市のそして広域の中心核として、業務・研究、教育・文化、商業・サービス、レクリエーション等の多彩でかつ高度な都市機能を有する国際的な新都心の形成を目指すものである。この新都心は、千葉県（千葉県企業庁）が 1973（昭和 48）年に公有水面の埋立免許を得て 55 年に竣工した約 440ha の埋立て地であり、ここに就業人口約 10 万人、居住人口約 2.6 万人の新しい街を作ろうとするものである。」千葉県政の意気込みである。本論の目的のための要点として、産業振興と税収確保を主目的に企業庁を設置し戦後の埋立を次々と事業化してきた千葉県自体がこの地最大の産業アクターであり、また幕張新都心自体が県内他地域とは異なる条例と景観ガイドラインに基づいた、自己完結型の景観都市であることを述べる（図 2）。半世紀の埋立事業によって、この区域の海岸線は通算して 2.6km 沖へ移動した。

図2 新旧比較地図（左：大正10年測図（波線は遠浅干潟） 右：平成16年更新（左下隅に現「幕張の浜」） 左右とも国土地理院1/25,000地図 ウェブ掲載は谷謙二埼玉大学人文地理学研究室）



この幕張新都心地区には幕張の名を冠する住居表示はなかったものの、JR 東日本はその中央に位置する京葉線の駅へ、行政の意図をくみ海浜幕張駅と命名して1986（昭和61）年3月に開業した。全国に先駆けた国際規格のコンベンション都市として中核を担ったのが図2右側地図左下最大の塗りつぶし建物として確認できる幕張メッセ<sup>11</sup>である。東京モーターショーの開催規模飛躍の場としてたちまち知名度を得て、幕張の名を広く知らしめる役割も果たした。

幕張新都心の企業土地分譲と就業人口が計画に未達である一方、大型商業施設が好調となり、県は千葉市美浜区豊砂地区および隣接する習志野市芝園の一部区域を幕張新都心拡大地区並びに多極分散型国土形成促進法に基づく千葉業務核都市の業務集積地区として位置づけることを決定した。ほどなく習志野市芝園地区の商業アクターが軒並み幕張と称し称されるようになり（表3）、この時点で幕張の地名は千葉市との包含関係がなくなった。

<sup>11</sup> 「日本を代表するものに育てたい」と、運営会社を株式会社日本コンベンションセンターと命名。通称の幕張メッセが知名度を向上させる（2005年に同名に社名変更）

表3 習志野市芝園に立地する“幕張”を冠する事業拠点（店舗、工場または営業拠点）（豊田調べ）

|  |
|--|
| オートバックス海浜幕張店   オークー幕張店   東京インテリア家具幕張店<br>セルバス幕張店   テンポス幕張店   島忠ホームズ幕張店<br>西松屋ホームズ幕張店   オートバックス海浜幕張店   プラスワン幕張店<br>レンタルのニッケン幕張営業所<br>ヤクルトイースト・ロジスティクス幕張営業所<br>鴻池運輸千葉支店幕張流通センター営業所 |
|--|

### 3. 先行研究

このように複層的な役割を負ってきた地域とまつわる産業アクター群が、それぞれ幕張の呼称を面的かつ性質的に拡張使用する潮流をふまえ、本論ではこの地名への範囲認識を都市利用者に問うことにした。

K・リンチの『都市のイメージ』（2007）は都市地理学の嚆矢としてよく知られている。特に日本など各地の都市にあたっては大きな示唆を与えている。人々が都市にもつ視覚イメージを形成する主軸は5つのエレメントであることは本論が沿うものである。都市ごとに来訪者や在住者に与える視覚的イメージが異なる理由を、物的に鮮やかに分類している。

パス（Paths）：                      <路>   移動するため、通るための都市要素。道。歩行者、自動車、鉄道それぞれがパスをもっている。都市観察はパスから可能であり、またパスが景観に影響を与えることもある。

エッジ（Edges）：                    <縁>   線上のエレメント、観察者からは、連続の中断や、境界に映るもの。地域の漠然さ解消されてひとつにまとまる効果もある。

ディストリクト (Districts) : <区域> 都市の中の、面積をもつ部分。

観察者は心でその「中にはいる」。

ノード (Nodes) : <接合点、集中点> 人が行き交う場所。交換や結束をする場所。

ランドマーク (Landmarks) : <標> 町の目印。観察者が、外から接近することで、あるいは町に到着した時に目にするもので、心象に強く訴えかける、存在感のある物体。建物、看板、商店、山など。町の中になくてもよい。

これらをアンケート回答者に描画してもらった結果が認知地図 (cognitive map/mental map) である。個々の都市に対するイメージを各 15-30 人にじっくり描画してもらうリンチの調査方法は、都市へのイメージを丁重に浮き彫りにすることができる。また、共通エレメントの存在や、街のイメージの課題なども知っている。ただし、回答者にとって著名な都市、あるいは長く住む都市であればよいが、不慣れな訪問地では負荷がかかる。都市は不特定多数の産業アクターで支えられているのでそこに存在する認識を知るには工夫が必要である。例えば同研究では詳細を紹介するなかで、ボストンのイメージ認識を知るうえで『マサチューセッツアベニューより内側のボストン地図をざっと書いていただきたい』という設問をしている。この設問様式は調査者が発話したエレメントに回答者の範囲認識が誘導され、ないし固定化されるおそれがある。本論のように、地名の一部として万人が認める決定的な区域なり街路はないのではないかと、という仮説を検証するには適合性を欠く。また、同研究では、被面接者に、白紙上に街の略図を欠かせる方式を採っている。“幕張”の施設を利用したことがあり、街のイメージが脳裏にあるとしても、地図は書けない、という被面接者から有効なデータを取り損じる可能性がある。そして、幕張のケースではリンチが言うパブリックイメージが確立していないおそれがある。なぜならば、幕張という地名が、異なる性質



のディストリクトどうしで、派生的に使用されている可能性があり、その場合は“大多数が共通に抱いている心象”の位相もずれる。むしろ本論ではその点の分布なりダイナミズムなりをあきらかにしてゆくことが目的であるため、採用する研究調査方法には創意工夫が求められる。以下、方針を確認した。

第1に、地名への反応をとらまえることを主眼とし、調査者が特定の範囲やエレメントへ誘導しないこと。調査地点が幕張であるかどうかさえも、つまり「幕張に行く」のか「幕張にいる」のかさえも調査者から特定ないし誘導しないこと。

第2に、回答にあたって、回答者が正答を探そうとしないこと。また正答を出したいという動機を生じさせないために、回答者が調査者の預からないところで検索や問い合わせをしないこと。

第3に、都市に対する好悪のイメージを問わないこと。

第4に、調査地点および調査対象が、一都市に対する不特定多数の産業アクターの認識をなるべく反映すること。これらを求めて、先行研究でとられた方法に注目する。

中村ら（1980）は地点識別法を採用し、広島市を題材にして都市景観認識の分析を行った。この方法は正答を用意している。同研究の方式「範囲認識法」は空間的位置情報を含む再認法である点までは同じだが、仮に本論の調査でこの方式を採用しようとする、どこまでが幕張かという正解は各回答者のなかにあり設問者が規定しない、という姿勢が相違点となる。本論では、回答者へ知識は問わず、認識を問うことに集中する。

矢守（1994）の研究手法では、回答者は近畿全体の白地図上で府県の地図（境界）を描き、のちにディジタイザーを用いてコンピュータグラフィックで再現する。社会的表象としてのメンタルマップに関する研究である。この方法は回答者にとって自由度が高く、しかも絵ではなく線を書くだけなので回答者の負荷が低く、かつ多様性も再現しやすいと思われる。反面、府県境と問うというのは一般

に正解がある設問、と回答者から捉えられるであろう。

谷口ら(1995)は、筑波研究学園都市の発展でおおきな変容に直面した地名「つくば」を対象とした地名認識範囲設定の研究を行った。電話帳を用いて、対象地域に存在する事業所が地域名を採用する確率の経年変化と分布を、同都市で検証している。分析対象である産業活動者が地名を選択することに注目した点が、本論の目的に符合する。ただし対象は産業活動者中事業者、つまり専ら事業者であって、地域での消費者など、産業利用者視座での地名認識範囲に触れるものではない。

これらの観点から、既存の知見をふまえつつ独自の調査方法を採用することとした。

## 4. 調査方法

上記の先行研究をふまえ、本論では対面による聞き取り調査を行った。巻末に示す3つの設問を調査員が読み上げた。設問1、設問2、その他のコメントに関しては調査員が聞き取りのうえ書き取った。設問3に関しては調査員が回答者に筆記具を渡し、A3判の複写地図(国土地理院発行25000分の1 図6参照)上に直接記入してもらった。

対象を成人とする、ただし性別および年代については、属性分類の厳密性を必ずしも問わない主旨の調査であり、また回答者の負荷を軽減するという理由から、訓練された調査員が直接コミュニケーションを通して男女別および10年ごとの年代類別の推測を行った。

### ・聞き取り調査の手法

すべて対面式とした。許可を得た施設内、民家、公園などにて、呼びかけに応じた利用者のみに対する調査を行った。設問は3問とし、すべてオープンクエスチョンとして選択肢の提示を廃した(巻末資料)。追加のコメントがあれば傾聴し

書き取ることとした。

設問 1、設問 2、その他のコメントに関しては調査員が聞き取りのうえ書き取り、設問 3 に関しては調査員が回答者に筆記具を渡し、A3 判の複写地図上に直接記入してもらった。設問に対し、即座に回答者の脳裏に浮かぶイメージのみを回答するよう意図した。ごく一部、都合で筆記具を持ってない回答者に関しては調査員が目の前で代わりに記入した。範囲のイメージが持てないという回答に対してはそのまま記録とした。設問 1、設問 2 においては“まくはり”の発話のみ回答者の耳に入れ、幕張あるいは馬加の文字、あるいは回答事例を調査員から示すなどの誘導的質問方法を排除した。事前に設問を知らせ、自宅などで熟考された回答例なども存在しない。

設問 3 では国土地理院地図上にいくつかの地名および施設名が記されているが、回答者からの質問があった場合のみ、記載されている地名にかかわらず、ご自身のイメージで範囲を記入してください、と調査員より依頼した。地図上の陸地の約 8 割は宅地・商業地・工業地であり記載が大変細かいため、回答者の求めに応じて調査員が施設名や道路名を発話した。地図に馴染みがない回答者の場合は、エッジを訊ねることで質問者がその地を代わりに指さすことで記入を促した。エッジのイメージを持たない回答については、回答されたランドマークおよび幕張ディストリクト内として認知しているノードその他の建物、自然地点を複数聞き出してそれを最小直線で質問者が囲んだ。各標本の聞き取り実施地点を星印で地図上に、フリーコメントを裏面に記録した。

#### ・調査地点と聞き取り対象者の選択

本論では聞き取り地点を地名の歴史的特徴上 6 つのゾーンに区分して設定した。聞き取り地点は以下の通りである。

《幕張町》 現在の千葉市花見川区幕張町 (ゾーン A)

《幕張本郷・幕張西(本郷・西)》 「幕張」の文字を部分的に有する住居表示

区域。(ゾーン B)

《旧千葉郡幕張町制域(旧町制域)》 過去に千葉郡幕張町域に含まれていた地点(ゾーン C)

《幕張新都心(新都心)》 現在、千葉県政マスタープラン「幕張新都心地区」の範囲にある地点(ゾーン D)

《A-D 隣接区域》上記ゾーン A、B、C および D に接している住居表示区域(ゾーン E)

《E 隣接地区》上記ゾーン E に接している住居表示区域(ゾーン F)

地図への幕張の境界の描画により“いま幕張にいる、いない”という認識が明らかになる。回答者の集団動員は行わず、回答者からはその場で自身の意思で回答協力を許諾していただいた。かつ他者に影響されないよう、2 人以上から協力を得る場合もコミュニケーション上の配慮をお願いした。幕張にまつわる幅広い居住者・勤務者・利用者の回答を得るようつとめた。

## 5. 調査結果

2016(平成 28)年 7 月 1 日より 9 月 16 日にかけて、対面式の聞き取り調査を実施し、309 の有効回答を得た。実施日により訓練された調査員 1 名あるいは補助調査員との 2 名で行った。実施日数は計 25 日であり、調査実施地はすべて千葉市および習志野市であった。標本 309 のうち聞き取り調査の結果 4 件が未成年と判明したため、305 標本を本論の分析母数とする。

回答者の属性であるが、性別では女性 163 名、男性 142 名であった。年代別は、20 代 31 名、30 代 48 名、40 代 63 名、50 代 41 名、60 代 54 名、70 代以上 68 名であった。前述した理由のとおり、性別および年令は調査員による推定である。

この中に成人大学生が 5 名含まれているが、公共地の利用中に不特定多数成人向け調査に応じた産業利用者の一員として母数に含めている。また調査地点があ

る街区の町名に対して各回答者がどのような属性に該当するかについては、会話の結果から勤務者、居住者、利用者に類別した。

聞き取り調査地は以下の通りとなった。標本数は 305、調査地点は 50 か所であった。

いずれも千葉市あるいは習志野市内である。公民館、公共地、事業所、民家等多岐にわたった。

ゾーン A 《幕張町 1-6 丁目》 49 名 調査地点：8 か所

ゾーン B 《幕張本郷・幕張西》 57 名 調査地点：6 か所

ゾーン C 《旧千葉郡幕張町制域》 16 名 調査地点：10 か所

ゾーン D 《幕張新都心》 98 名 調査地点：11 か所 (D1 9 か所 D2 2 か所)

ゾーン E 《A-D の隣接地》 65 名 調査地点：11 か所

ゾーン F 《E の隣接地》 20 名 調査地点：4 か所

なお、幕張を知らない回答者はゼロであった。また、幕張に行ったことがないと答えた回答者は 1 (聞き取り地：ゾーン F) であった。

表 4 地名付与の経緯による区分（豊田）

|                              | ゾーン A  | ゾーン B                   | ゾーン C   | ゾーン D   | ゾーン E                           |
|------------------------------|--|-------------------------|---|---|---------------------------------|
| 本 論 内 での呼称                   | 《幕張町》  | 《幕張本郷・幕張西》              | 《旧幕張町制域》  | 《幕張新都心》   | 《A-D 隣接区域》                      |
| 面積                           | 360.6ha  | 254.8ha                 | 705.1ha   | 522.2ha * *   | -                               |
| 人口                           | 28,240 人                                       | 52,913 人                | 29,599 人  | 23,605 人  | -                               |
| 世帯数                          | 12,249 世帯                                      | 23,847 世帯               | 12,176 世帯   | 8,219 世帯  | -                               |
| 住居区分上                        | 現在“幕張町”である                                     | “幕張”を含む住居表示             | 以前の地名が“千葉郡幕張町〇〇”であった                                  | “幕張”でない   | “幕張”でない                         |
| 該当する住居表示下線：<br>習志野市<br>数字は丁目 | 幕張町 1-6  | 幕張本郷 1-7<br>幕張西 1-6     | 武石町 1-2<br>長作町<br>天戸町<br>実籾町 1-6,<br>屋敷 1-5<br>花咲 1-2 | 若葉 1-3<br>中瀬 1-2<br>ひび野 1-2<br>打瀬 1-3<br>豊砂<br>芝園 1   | 畑町<br>検見川町<br>袖ヶ浦<br>本大久保<br>など |
| 行政区分上                        | 千葉市花見川区  | 千葉市花見川区<br>千葉市美浜区       | 千葉市花見川区<br><u>習志野市</u>                                | ＜幕張新都心地区<br>(千葉県マスタープラン)＞<br>千葉市美浜区<br><u>習志野市</u>  | 千葉市花見川区、美浜区<br><u>習志野市</u>      |
| 土地利用                         | 宅地、農地<br>(北部)<br>幅員のせまい車道(モータリゼーション以前の土地利用を踏襲) | 宅地<br>(区画整理地)<br>都市計画道路 | 農地、宅地<br>県道幹線   | タウンセンター<br>(33.0ha)<br>業務研究施設<br>(84.6)<br>文教用地<br>(57.8)<br>住宅公益<br>66<br>公園緑地<br>85.8<br>道路その他<br>125.1 | —                               |

|   |  |                                      |  |   |  |
|---|--|--------------------------------------|--|---|--|
| ノード<br>鉄道駅の<br>み記載。<br>( )はゾ<br>ーン外の<br>最寄。 | JR 幕張駅<br>京成幕張駅                          | JR 幕張本郷駅<br>京成幕張本郷駅                  | 京成大久保駅、<br>実籾駅<br>(JR・京成 幕張<br>駅、幕張本郷<br>駅、) | JR 海浜幕張駅<br>(JR 新習志野駅)                  | 新検見川駅 津<br>田沼駅 検見川<br>浜駅 新習志野<br>駅(以上 JR)<br>検見川駅 津田<br>沼駅 大久保駅<br>実籾駅(以上京<br>成) |
| バス<br>ゾーン内                                  | 国道 14 号線<br>〔片側 3 車線〕<br>JR 総武線<br>京成千葉線 | 京葉道路<br>〔自動車専用道路〕<br>JR 総武線<br>京成千葉線 | 京葉道路<br>〔自動車専用道路〕<br>京成電鉄本線                  | 国道 357 号<br>東関東自動車道<br>〔高速道路〕<br>JR 京葉線 | -(各種。左記の<br>延長を担う)   |

数値データは平成 22 年国勢調査（調査日 2010 年 10 月 1 日） ただし \* 幕張新都心オフィシャルガイド（千葉市発行）より

下線地名：習志野市 ゾーンの区分および呼称は本論のためのもの。

上記に加えゾーン F ≪ E 隣接区域 ≫ でも聞き取り調査を行い、“まくはり”の認識境界をさぐる。対象地域は、E に隣接する住居表示をもつ秋津、津田沼（以上習志野市）、南花園（千葉市花見川区）など。

## ・結果の図示と表示

聞き取り調査結果（n=305）を以下に示す。

図 3 および表 5 は 聞き取りの設問 1 を集計したものである。

「“まくはり”の目印（Landmark）はなんですか？」と訊ねる自由回答（複数回答可）で、ひとつめの回答を集計した。最多回答は幕張メッセ（100 件、32.8%）であった。上位 5 位までの回答がゾーン D に集中した。

図 4 および表 6 は 聞き取りの設問 2 を集計したものである。

「“まくはり”のまちの中で、人々が集まるところ、行きかうところはどこ

ですか？」

これも自由回答（複数回答可）である。最多回答は幕張メッセ（99 件、32.5%）であった。上位 5 位までの回答がゾーン D に集中した。

図 5 はおよび表 7 は 設問 3「ご自身が“まくはり”と思われる範囲をペンでかこってください。」の回答集計である。

図 6 は設問 3 の回答標本を縮小したものである（原寸は A3）。4 種掲載する。

図 7 および表 8 は 幕張の範囲認識 年代ごとの分析である。ゾーン A およびゾーン D への認識が、年代ごとに違いをみせるかどうか注目し抽出した。70 代以上のみが特徴値となった。

図 8 および表 9 は 幕張の範囲認識 聞き取り調査地点ごとの分析である。ゾーン A およびゾーン D への認識の差異が、聞き取り地点（ゾーン A からゾーン F までの 6 類別）ごとに特徴を示すかどうかをあきらかにするために抽出した。A、D では相互に特徴値を示した。

図 9 と表 10 は 聞き取り地点ごとの認識地図範囲結果である。

回答者が、聞き取り地を幕張の範囲に含めた場合は肯定、含めなかった場合は否定とした。



図3 設問1 “まくはり”の目印(Landmarks)はなんですか？回答  
(ひとつめの回答を集計)

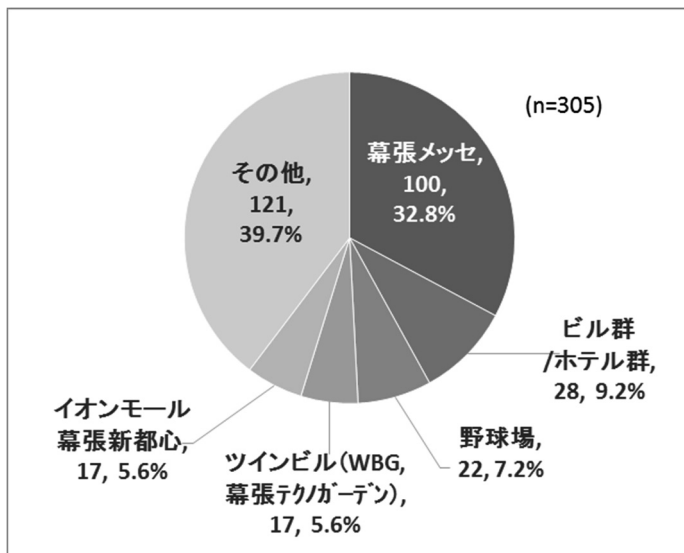


表 5 設問 1 “まくはり”の目印 (Landmarks) はなんですか？回答  
(ひとつめの回答を集計)

n=305 自由回答。複数回答者に関しては最初に回されたもののみ掲載。

| 回答数<br>%         | 目印名                  | 所在地 | 備考 外観上の特徴  |
|------------------|----------------------|-----|--|
| 1<br>100<br>32.8 | 幕張メッセ                | D   | 日本最大級の国際展示場。1-8 ホール棟の展示面積 54,000 m <sup>2</sup> は 1 棟として国内最大。○ほとんどが「幕張メッセ」と言わず「メッセ」と回答 |
| 2<br>28<br>9.2%  | ビル群(26)、<br>ホテル群(2)  | D   | 中瀬1-2 丁目に集積する高層オフィスビル群およびホテル群  |
| 3<br>22<br>7.2%  | 野球場                  | D   | 千葉マリンスタジアム。収容人数 30,119 人。1992 年より千葉ロッテマリーンズ本拠地。○「QVC」「マリン」「球場」など答えかた多数                 |
| 4<br>17<br>5.6%  | ツインビル                | D   | ワールドビジネスガーデン(地上 35 階、軒高 153m 海浜幕張駅南口) および幕張テクノガーデン(地上 24 階、軒高 106m、同駅北口)。              |
| 4<br>17<br>5.6%  | イオンモール<br>幕張新都心店     | D   | 敷地面積 192,000 m <sup>2</sup> 、国内 3 位。同社郊外型モールの旗艦店。                                      |
|                  |                      |     | 上位 5 位計 184 回答 (60.3%)   |
|                  | ＜上記以外の主な回答＞          |     |  |
|                  | 9<br>JR 幕張駅          | A   | 1894(明治 27)年開業。総武線   |
|                  | 7<br>イトーヨーカドー<br>幕張店 | A   | 1998(平成 10)年開業。店舗面積 13,350 m <sup>2</sup> は花見川区最大                                      |
|                  | 6<br>海。昔の            | A   | 漁業と潮干狩り、海水浴の遊覧事業地となった遠浅海岸。1973(昭和 48)年、第二次埋立事業のため全面閉鎖                                  |
|                  | 6<br>幕張本郷駅           | B   | 1980(昭和 55)年開業。総武線。  |

その他の少数回答例 : 潮のにおい (3 回答) 三代王神社 (1 回答) にんじん畑 (1 回答) ららぽーと (1 外 (船橋市)) スカイツリー (1 外 (東京都墨田区)) 特になし (6 外) 海 (1 外)

図 4 設問 2 “まくはり” のなかで人が集まる場所、いきかうところ (Nodes) は? n=305

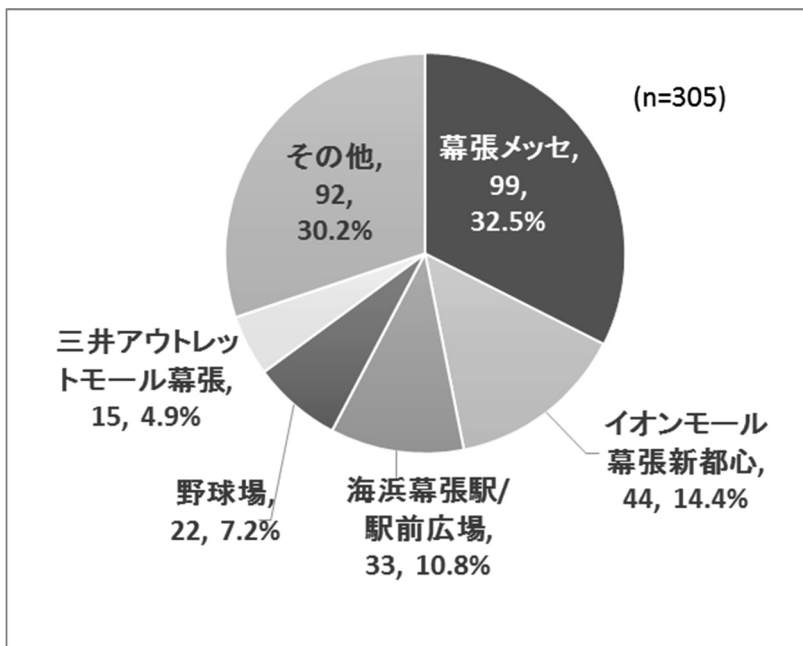


表 6 設問 2 “まくはり”のなかで人が集まる場所、いきかうところ(Nodes)は？

自由回答。複数回答者に関しては最初に回答されたもののみ掲載。n=305

| 回答数<br>%              | ノード名          | 所在地 | 備考   | ノードとしての特徴 |
|-----------------------|---------------|-----|--|-----------|
| 1<br>99<br>32.5       | 幕張メッセ         | D   | 年間利用者数 591 万人(2016 年度、事業会社発表)駐車場約 5,500 台                |           |
| 2<br>44<br>14.4       | イオンモール幕張新都心   | D   | 年間来場者数 3100 万人(2014 年開業初年度、事業会社発表)駐車場約 7,300 台           |           |
| 3<br>33               | 海浜幕張駅、駅前広場    | D   | 乗降客数 63,225 人/日(2015 年度)                                 |           |
| 4<br>22               | 野球場           | D   | マリーンズ主催公式試合は年間 71 試合、観客数 132 万人(2015 年度実績、パシフィック野球連盟発表)  |           |
| 5<br>15               | 三井アウトレットモール幕張 | D   | 専門店中心に 137 店舗 年間来場目標人数 380 万人(2015 年 7 月事業会社発表)          |           |
| 上位 5 位合計 213 票(69.8%) |               |     |  |           |
| <上記につづく回答>            |               |     |  |           |
| 10                    | イトーヨーカドー幕張店   | A   | 駐車場 1,401 台  |           |
| 5                     | 幕張駅、駅前通り商店街   | A   | 乗降客数 15,809 人/日(2015 年度)                                 |           |
| 5                     | 幕張本郷駅、駅前ロータリー | B   | 乗降客数 27,665 人/日(2015 年度)                                 |           |
| 4                     | 幕張海浜公園        | D   | 249,792 人/年「平成 26 年度県立幕張海浜公園の指定管理者管理運営状況評価結果について」(千葉県発表) |           |

その他の少数回答例： 「一本松公園。子供たちが多い」[m156]「何もない。昔から。七年祭りくらいかな」[m209]「ない。あ、ヨーカドーくらいかな」[m240]「幕張駅前商店街」[m242]「浜。あれって稲毛だっけ？」[m290] ホテル群 (2 件)

図 5 設問 3 ご自身が“まくはり”と思われる範囲をペンでかいてください。

【幕張の範囲認識】

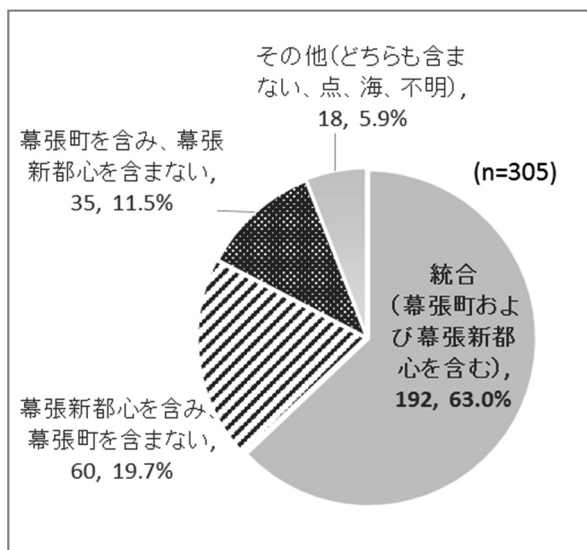


図 6 設問 3 の回答標本

例 (左から m017 [幕張町] m230 [新都心] m292 [統合] m57 [統合])



表 7 設問 3 ご自身が“まくはり”と思われる範囲をペンでかこってください。

【幕張の範囲認識】描画抽出結果

|                   |        |                      |      |
|-------------------|--------|----------------------|------|
| 「幕張町のみを指す」        | 25 回答  | 幕張町＋武石<br>(または長作、天戸) | 3 回答 |
| 「幕張新都心のみを指す」      | 57 回答  | 幕張町＋若葉               | 3 回答 |
| 「幕張町も幕張新都心も併せた区域」 | 189 回答 | 幕張本郷＋幕張西             | 1 回答 |
| 「幕張町＋幕張本郷である」     | 7 回答   | 海                    | 1 回答 |
| 「幕張本郷＋幕張新都心である」   | 3 回答   | なし、不明                | 3 回答 |
| 「点のイメージしか浮かばない」   | 10 回答  |                      |      |
| 「2 か所に区域が分かれている」  | 2 回答   |                      |      |
| 「幕張本郷のみを指す」       | 3 回答   |                      |      |

統合（現幕張町および新都心を含む）192（うち「幕張町＋若葉」3）

新都心を含み 現幕張町を含まない 60（うち「幕張本郷＋新都心」3）

現幕張町を含み 新都心を含まない 35

その他 18（幕張本郷のみ 3 海 1 “点”のイメージ 10 など）

図 7 “まくはり”の範囲認識 年代ごとの分析 認識地図範囲 回答傾向分析  
n=305

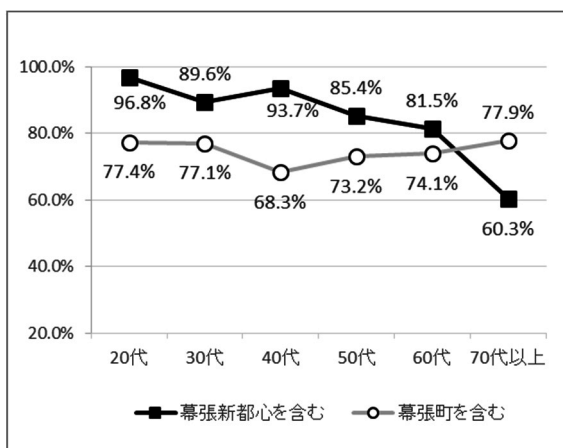


表 8 “まくはり”の範囲認識 年代ごとの分析 認識地図範囲 回答傾向分析  
n=305

| 回答者年代           | 20 代  | 30 代  | 40 代  | 50 代  | 60 代  | 70 代～ |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 回答数 合計=305      | 31    | 48    | 63    | 41    | 54    | 68    |
| 「幕張町を含む」回答 件数   | 24    | 37    | 43    | 30    | 40    | 53    |
| % 小計=227        | 77.4% | 77.1% | 68.3% | 73.2% | 74.1% | 77.9% |
| 「幕張新都心を含む」回答 件数 | 30    | 43    | 59    | 35    | 44    | 41    |
| % 小計=252        | 96.8% | 89.6% | 93.7% | 85.4% | 81.5% | 60.3% |

図 8 “まくはり”に「幕張町を含む」「幕張新都心を含む」聞き取り地ごとの認識地図範囲 n=305

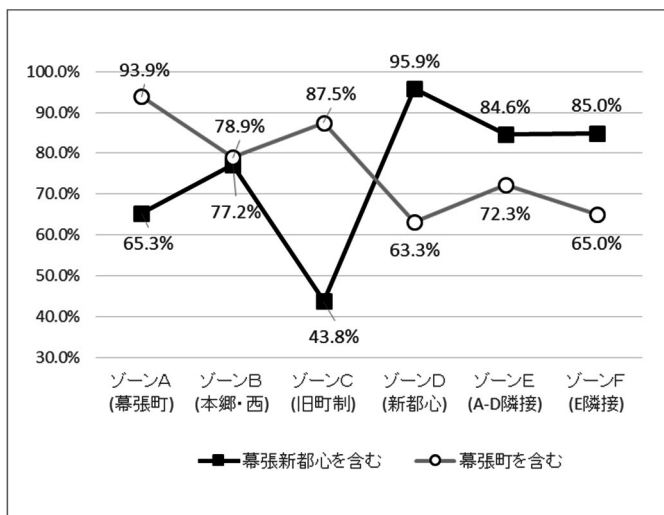


表 9 “まくはり”に「幕張町を含む」「幕張新都心を含む」聞き取り地ごとの認識地図範囲 n=305

| 聞き取り地点のある<br>ゾーン         | A<br>《幕張町》  | B<br>《本郷・西》 | C<br>《旧町制》  | D<br>《新都心》  | E<br>《A-D 隣接》 | F<br>《E 隣接》 |
|--------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|-------------|
| 回答数<br>(合計 305 標本)       | 49          | 57          | 16          | 98          | 65            | 20          |
| 「幕張町を含む」<br>回答数 割合 (%)   | 46<br>93.8% | 45<br>78.9% | 14<br>87.5% | 62<br>63.2% | 47<br>72.3%   | 13<br>65.0% |
| 「幕張新都心を含む」<br>回答数 割合 (%) | 32<br>65.3% | 44<br>77.1% | 7<br>43.7%  | 94<br>95.9% | 54<br>83.0%   | 17<br>85.0% |



図9 聞き取り地点は“まくり”の範囲である 【幕張の範囲認識抽出】

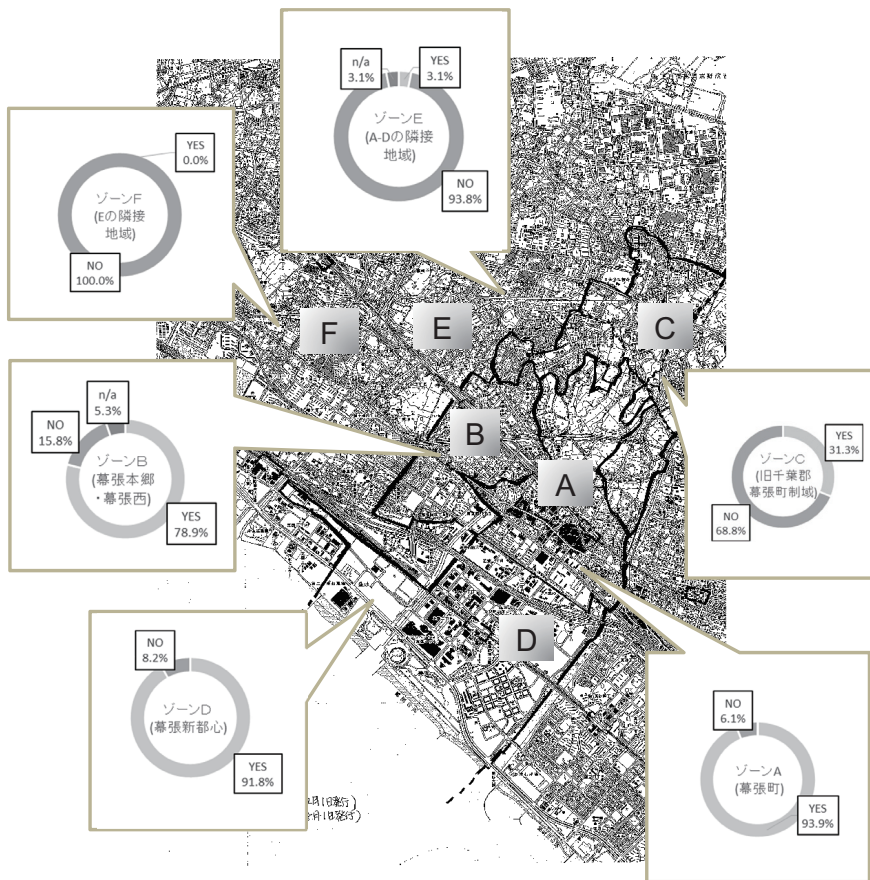


表 10 聞き取り地点は“まくはり”の範囲である（肯定、否定回答の各合計は100%にならない）

| 聞き取り地点のある<br>ゾーン | A<br>《幕張町》  | B<br>《本郷・西》 | C<br>《旧町制》  | D<br>《新都心》  | E<br>《A-D 隣接》 | F<br>《E 隣接》  |
|------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|--------------|
| 回答数              | 49          | 57          | 16          | 98          | 65            | 20           |
| 肯定回答数<br>%       | 46<br>93.9% | 45<br>78.9% | 5<br>31.3%  | 90<br>91.8% | 2<br>3.1%     | 0<br>0%      |
| 否定回答数<br>%       | 2<br>6.1%   | 9<br>15.8%  | 11<br>68.8% | 8<br>8.2%   | 61<br>93.8%   | 20<br>100.0% |

## 6. 考察

対面聞き取り調査の集計から抽出された、特質といえる結果を3つ挙げる。

- ① 座標の分離、あるいは二極化
- ② 「記憶の幕張」の優先想起現象
- ③ 情緒性、選好性の発生

まず第1に、幕張の座標が分離して

いることを指摘し、その理由を考察する。図5からわかるように、回答者の6割強が幕張町《ゾーンA》と幕張新都心《ゾーンD》を認識に含めている。一方、回答者の2割は幕張町《ゾーンA》を含めず、また回答者の1割強が逆に幕張新都心《ゾーンD》を幕張と認識していない。同じ地名でありながら、あわせて3割強の回答者が、重なり合わない2つの区域に対して幕張というひとつの地名を使っていることになる（図10）。地名・

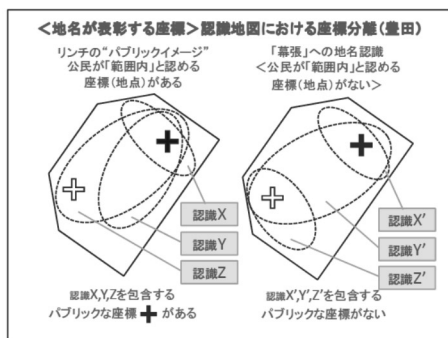


図 10 認識地図における座標分離（豊田）

幕張の特徴が、語る口により、かみ合わないという現象が生じる<sup>12</sup>。回答者が双方を知っている、知っていないという知覚 (perception) の要素と、認識 (cognition) の要素が交差しているものとする。一都市の公民、ここでは産業活動者のパブリックイメージに共通座標が備わっていない例の提示と言えよう。ところでゾーン A とゾーン D は約 2km にわたり埋立地内で境界を接している。この境界は主に片側一車線の平板な車道でできており、本論調査地域内にあるエッジの夥しさ<sup>13</sup>に比べれば特段の物理的障壁を目にしないが、全長の約 3 割は小ぶりの水路として浜田川に垂直に通じている。遡れば、この境界は第一次埋立と第二次埋立の境界線であった。第二次埋立工事で船溜の四方が陸地となってゆく際にも小舟が沖に出ることのできた水路と考えられる。1989 (平成元) 年に街びらきを行って 28 年の幕張新都心と、往古の歴史をもつ幕張町は、現段階においてひとつの地名が認識上分離使用されている状態が生じている、その要因を考察するとすれば両ゾーンの景観コントラストと同時に産業アクターの相違も論じることが肝要であろう。幕張町は、特に継場時代からの市街化区域にて、往時からの道幅や風情を極力保持しているように思われる。旧来の浜田川流域を代表して 570 年続く広域大祭、下総三山の七年祭りではクライマックスのひとつとして礮出式を行うのだが、神事に必要な砂浜を失った現在でも旧幕張海岸の広場を使用し続けている。沖へ遠ざかった海岸線を追うのではなく、不動の座標としての地点を重んじる表象ともうけとめられる。かたや幕張新都心は産・学・住・遊が集積する国際規格の計画都市として歩みをつづけ、近未来的な景観の創出が条例でも促されてい

<sup>12</sup> 幕張の印象についての回答者発言には『おもしろいものがあり、好奇心をかきたてられる所、それが幕張。』(m094)『とにかく拓けていないところ』(m209)『幕張と言えば、道路が広く、施設があって、ゆったりしているところ』(m249)『(道が狭くて) 車がすれ違えない』(m209)『幕張とは、常に何か新しいことが起こっているところ目が離せないしすぐ行かなくちゃいけない』(m248)『何もない』(m240) という極端な差が発生する。

<sup>13</sup> 例えば幕張町 6 丁目から幕張の浜 (現在) に至るには、この区域を並行して横断する 6 の切実なエッジ (北から順に JR 総武線平面鉄路、京成千葉線平面鉄路、国道 14 号線、東関東自動車道高架、JR 京葉線高架鉄路および海浜大通り。3 つの車道はいずれも幅員 50m 以上) を越えなければならない。幕張町 6 丁目から海岸までの直線距離は 3150m、埋立以前は 550m であった。

る。幕張新都心を単に幕張と略称し名乗る産業活動者が過半となった。幕張町域では数分歩くごとに深淵な寺社に遭遇するが、広大な幕張新都心地区に寺社は無い。代わりに、ホテル群のチャペルに囲まれるかのように、幕張メッセがその名の由来の通りイベントごとに“信者”を豪快に集め『幕張の地名を県外に広めた』（m124）。祝祭空間と捉えても、幕張町と幕張新都心は隣り合う別世界と言える。幕張町は大企業進出のための土地にも限りがあり、幕張新都心は逆に高層ビル群の経営性格上スモールビジネスの進出には制約が伴う。産業アクターも自ずと色分けされざるを得ない両ゾーンであるが、6割を超える回答者が＜統合＞の認識を持っていることも判明した。「幕張と言えば・・・」のランドマーク、ノード認識も併存の向こうに新たな協奏があるかもしれない。

第2に、「記憶の幕張」の回答現象である。ランドマークの回答は建物に集中したが、自然で最も多かったのが、「海」の7件である。うち1件は現在の海岸[m150]を指しているが、6件（2.0%）が「海。昔の。」という回答であった<sup>14</sup>のはディスカッションに値する。更に、海のおい[m105] 潮風[m106] 潮のおい[m128]という、目印ならぬ嗅覚の回答が3件もあった。これら回答者は、同時にランドマークあるいはノードで一様に幕張メッセやイオンモールといった回答も併せているので、旧海岸の消滅を知らないわけではない。これらの回答者にとって、現在の“幕張”の印象は往時を超えるに及ばないのだろうか。窪田（2014）は水郷の商都・佐原で聞き取り取材を行い、街の文化などに対する人々の記憶を整理し、そのなかで「空間の形態も利用も消失しているにも関わらず、記憶が語られたものには、生業や賑わいに関するもの、大規模な空間の改変を実現させた公共事業などがある」とし、想起された記憶が更に記憶を呼ぶという現象を紹介し記録の重要性を訴えかけている。本論でも埋立以前の「昔の海」が回答者にとり賑わいの記憶として刻まれているのであれば、かつて驚異的な人出となった幕張海岸遊

<sup>14</sup> [m148、m197、m207、m211、m225、m244]。そしてスナッパ（旧幕張海岸の一角、通称）[m003]を合わせると、すでに存在しない海岸のランドマーク回答は7軒であった。

覧事業の経緯と一致するところであり、季節に得た自然と賑わいの組み合わせの記憶を、現代の興味がなかなか更新できないのかもしれない。あるいは地形と構築物のあまりの変化スピードに対し、心身で形成する認識地図では追いつこうとする作業を止め（やめ、とめ）ているとも解釈できる。また板谷ら（2015）は、被災地である宮城県南三陸町に赴き、震災前の祭礼の状況やそれをささえる人や組織などを当事者にヒアリングすることによって、記憶地図を作製し、自然地理上の災害による物理的景観的な喪失と同期しがちな精神の復興、文化継承の手がかりを導こうとしている。本論は災害を扱ったものではないが、たとえ公有水面という名のもとの共有財産であっても、また平和裏に手放す手続きを経たとしても、それが都市のエレメントとして中枢を担う存在であったとしたら、ましてや都市まるごとの産業転換を伴うとしたら、想定以上の心的衝撃があるであろうことを示唆してくれる。

最後に、地名における認識範囲の情緒性、選好性の存在に言及する。本論の聞き取り調査において、少しためらいながらも幕張の範囲を足してゆく回答者の姿を多く見かけた。自分がかつて楽しんだ商業施設や話題のスポットを見つけ「・・・これも幕張にいれてあげる」とつぶやきながら、こぶのように範囲を書き足してゆくのである。広義には地名のイメージ調査であるものの、今回は特定の地名に対して好悪や評価を問う設問は除外している。それでも楽しそうに幕張の範囲を書き足してゆく回答者を観ると、地名が示す座標や範囲を明らかにするといった真剣な取り組みは、利用者である個人が随意に決めているのだということも気付かされた。円状の回答や四角い回答、大きな範囲や小さな範囲、あるいは範囲をお願いしても点のみを記す回答など、不特定多数の人々がアクターになり支え合っている都市のアイデンティティたる地名への認識がこれほどまでに弾力的なのかと驚かされた次第である。この点が幕張に特有なのか、他の有力都市でも同様の多様さを観ることができるのか、地名と範囲認識のダイナミズムを今後も注視していきたい。

## 資料

### 聞き取り調査 口頭質問票（読み上げ用）

調査員が質問を読み上げますので、口頭でお答えください。

設問 1 “まくはり”の目印（Landmark）は何でしょうか？ 外から“まくはり”に近づき、あるいは到着するときの、建物・自然・駅・看板などを 1, 2 お聞かせください。

設問 2 “まくはり”の街のなかで、人が集まるところ、人が行きかう場所はどこでしょうか。

広場・施設・寺社・駅、なんでも結構です、ご存じでしたら教えてください。

設問 3 ここに地図\*があります。ご自身が“まくはり”を思う範囲を、この赤いペンで囲ってください。

（＊ 国土地理院発行 1:25,000 地形図「千葉西部」（平成 17 年 2 月 1 日発行）

および「習志野」（平成 10 年 8 月 1 日）を貼りあわせた、幕張の文字を含む住居表示地区、旧千葉郡幕張町地区、幕張新都心地区および上記隣接地区を含む A3 判コピー紙を使用）

建物名や道路名を確認なされたい場合は、指して頂ければ調査員が口頭でお答えします。

設問 3 を除き、調査員が聞き取って記入します。

## 参考文献

- 板谷(牛谷) 直子 , 中谷 友樹 , 前田 一馬 , 谷端 郷 , 平岡 善浩 2015 「記憶地図」による無形の文化遺産の現状と継承の課題 : 宮城県南三陸町志津川地区における地域の祭礼を事例として 『歴史都市防災論文集』 9, 73-80,
- 窪田 亜矢 2014 水郷の商都・佐原における「記憶の枠組み」についての研究: ー「歴史的なもの」との 関係をふまえた考察ー 『日本建築学会計画系論文集』 79(705), 2443-2452,
- 小荒井 衛 , 中埜 貴元 2013 面積調でみる東京湾の埋め立ての変遷と埋立地の問題点 『国土地理院時報』 124, 105-115,
- 谷口 守 , 荒木 俊輔 1995 認識に基づく地域範囲設定法とその経年的分析への応用 『土木学会論文集』 (524), 59-67
- 中村 豊 1979 メンタルマップ研究の成果とその意義 『人文地理』 31(6), 507-523,
- 中村 良夫 , 北村 真一 , 矢田 努 1980 地点識別に基づく都市景観イメージの解析方法に関する研究『土木学会論文報告集』 303, 79-91,
- 濱田 博之 2003 幕張新都心におけるオフィス集積と機能変化 『地理科学』 58(4), 253-267,
- 柳田国男 1936 『地名の研究』 筑摩書房
- 矢守 克也 1994 社会的表象としてのメンタルマップに関する研究 『実験社会心理学研究』 34(1), 69-81,
- K. リンチ 2007 『都市のイメージ』 岩波書店